

平成21年度第1回伊勢地区地域審議会会議概要

- 1 開催日時 平成21年6月4日(木) 午前10時～午前11時30分
- 2 開催場所 伊勢市役所東庁舎4-2会議室
- 3 議事内容 ① 正副会長会議の報告について
② 今後のスケジュールの確認について
③ ごみの収集方法等の統一に関する基本方針(素案)について
- 4 出席委員 浦田宗昭委員、小寺留男委員、櫻井治男委員、竜田和代委員、中村基記委員、春木千富委員、前田政吉委員、馬瀬清美委員、松月久和委員
- 5 欠席委員 池田千恵美委員、奥山孝人委員、佐久間泰子委員、杉田英男委員、柴原加代子委員、沼田崇委員、山本晃委員、山本幸正委員
- 6 出席職員 行政経営課長、行政経営課副参事、行政経営課政策係員1人
- 7 議事概要

(1) 「当該地域の現状と課題及びその具体的解決案について」の意見交換(会長)

5月11日に行われた正副会長会議の概要を報告します。

1点目、当地区から提案した他地区地域審議会との交流について、了解が得られ、秋頃の開催を目標に今後検討していく。共通の話題をテーマに意見交換を行う場としての交流を提案した。また、他地区地域審議会への傍聴について、参加することの了解を得た。

2点目、ごみの収集方法等の統一に関して、地域審議会それぞれに意見を求められ、後ほど担当部署から内容の説明があり、意見交換をお願いしたい。

3点目、地域課題とその解決方法について、9月までに意見することとなっていたが、新たにごみの収集方法等の統一に関して意見を求められたため、こちらを優先に審議を行い、地域課題については、平成21年度末を目途に提案することとなった。

(2) 今後のスケジュールの確認について(会長)

以前、審議会の開催と自由参加のミーティング開催のスケジュールを立てたが、議題が増えたため、開催時期を再度伺いたい。7月3日、8月4日にミーティングを行い、9月にごみの収集方法等への最終的な意見を出すにあたって8月中旬頃に第2回地域審議会を開催したい。当初に予定していた8月21日に決定された。

第2回地域審議会を8月21日(金)午後7時から開催することとし、ごみの収集方法等への意見の最終確認を行う。

(3) ごみの収集方法等の統一に関する基本方針(素案)について

●説明(環境課)

合併後の現在でも、地域によってごみのわけ方、出し方、集め方に違いがあり、合併の際に統一する重要な項目に位置付けされている。統一するにあたり、基本的な方針の素案をまとめたので、実施に向け基本方針の決定を行うため、8月末までに素案に対して地域審議会の意見を頂きたい。

基本方針をまとめるにあたり、現在取り組んでいるごみの減量・資源化を後退させることなく、住民の利便性、負担の公平性などの統一を図り、その結果、ごみの収集の効率性を高め、収集等に係る経費の削減を図りたいと考えている。

- 燃えるごみの集積化について、個別収集を行っている地区について、サービスの統一の観点から50世帯に1箇所の割合で集積化を行っていききたい。
- 資源ステーションの集約化について、既に集約化が行われているが、対象世帯数がバラバラのため、100世帯に1箇所の割合へステーションの集約化を行っていききたい。
- ごみ分別品目の整理について、現在15分別に分かれており、金属・その他、アルミ缶、スチール缶の分別で地域によって違いがある。広域環境組合の粗大ごみ処理施設において、鉄、アルミの資源化が行えるため、統一後は、それらを缶・金属類とし、資源物として資源ステーションで回収したいと考えている。
- 排出・回収頻度について、資源ステーションで回収する品目で地域によって排出頻度に違いがある。現状の回収頻度と排出量を考慮して検討を行った結果、缶・金属類の排出頻度を月1回に減らし、プラスチック製容器包装の排出頻度を週1回に増やすことで整理し、平成22年度より回収日を設定したいと考えている。
- 粗大ごみの回収について、無料収集がある、なしで違いがあるため、平成22年度より市内全域を対象に年1回、町内一斉収集を実施していききたいと考えている。
- 埋め立てごみについて、既に減量化を行っており、石膏ボード、スレートなど管理型処分場での埋め立てが必要な物以外のがれき類、側溝土砂などは資源化を行っている。二見、御菌の処分場を廃止し、伊勢投棄場を資源化できるものの置き場所とし、小俣の管理型処分場を真に埋め立ての必要なものを埋め立てるよう、使い分けていききたいと考えているが、付近の住民の理解を得る必要があるため、平成23年度からの目標としている。

●委員との質疑応答（環境課）

（委員）粗大ごみの回収について、年1回の町内一斉収集を市全域で行う考え方は？有料回収でもいいのでは？

A. 粗大ごみの排出には、車などで排出ができない方もある。年1回、行政が回収するサービスが必要であると考えている。

（委員）燃えるごみの集積化で、場所の確保など考えているのか？

A. 旧伊勢市からごみの集積化の方針が出ていたが、地域の判断に委ねていた。個別収集の地域は、場所の確保が難しく進んでいないが、50世帯で1箇所を基本に、集積所として使用できる場所を選定し、説明時には案を持って、行政が関わっていくことでお願いをしたい。また、集積かごの予算化も補正で対応でき、合意が得られた場所から設置していき、集積化を進めていきたい。

（委員）50世帯に1箇所の場合、集積かごは、どの程度の大きさになるのか？

A. さまざまな形状があるが、幅3.6m、高さ1.8m、奥行き0.9mの金網状のもので50世帯がカバーできると説明している。場所によっては、小さなものを2つ並べるなど地域の実情によって対応できる。

(委員) ごみ収集の効率化を考えると道路に面した場所への設置となるが、観光地であるので景観に配慮をお願いしたい。

A. 個別収集は、町中に多く残っており、観光客もみえるため地域の皆さんと設置場所、集積所の形状、景観への配慮など相談したい。

(委員) ごみの収集を早朝に行うなど収集時間の変更は考えているのか？

A. 大都市部などで行われているが、伊勢とは事情が異なる。収集がすべて民間委託で、費用をかければ対応できると思うが、直営収集の体制では難しいと考えている。

(委員) 集積所へ不法投棄があった場合の処理は誰が行うのか？

A. いつでも出せる場所では、不法投棄が現在もある。今回、資源ステーションへの排出物の種類によって回収日を設定するため、回収日以外は施錠を行い、市で管理することから減ると考えている。不法投棄された場合は、市へ連絡をもらい、中身を調べ、特定できる場合は警察と相談するなど市で対応する。

(委員) アパートなどでごみ置場がない所で、ポイ捨てに困っている。管理義務などはないのか？

A. 開発行為にかかるアパートの建設などの場合は、集積所の設置が条件となっている。古いアパートで集積所がない地域へ説明に行く場合は、区長さんと相談し、住民への意識付けなど地域の実情に応じて対応を考えたい。

(委員) 集積所の候補地について、住民への説明はあるのか？

A. 市の説明としては、まず区長さんへ説明することから始めたいと考えている。受け止め方や考え方により、役員へ相談したり、住民へ意見を求める等さまざまである。

(委員) 集積化が進んでいる他市等の事例は？計画のベンチマークとして、必要では。

A. 他市の状況データは持っていない。今回の素案では、他市の事例を参考にするのではなく、分別品目、集積所など旧4市町村で既に取り組んでいた内容で統一することを検討した。集積所までの距離について、重さを考慮すると、燃えるごみは、100m、資源ごみは、200mが限度と考えている。

(委員) 個別収集から集積化によりごみを出すことの意識が希薄になるなどモラルは守られるのか？事業系ごみについて、有料化されているが集積所へ出されないか？

A. 生ごみの資源化を検討しており、燃えるごみの内容の実態調査を地域別に行ったが、資源物の混入など地域による差はなかった。資源物については、差が見られたため、啓発など必要と考えている。また、事業系ごみについて、事業活動に伴う大量のごみは収集時に判別できる。

(委員) 収集体制について、将来的に直営方式から民営化への流れと認識していいのか？

また、ごみの排出について、伊勢市は分別どおり出せていると考えていますか？

A. 既に、一部民営化しており、基本的な流れはそうなっていくと考えている。排出状況について、基本的には分別どおり出せていると考えている。資源物の啓発を積み重ねていきたい。

●審議会の議論

(会長)

審議会として、素案の基本的な部分は了承し、何らかの付帯意見をつけるのか、または根本的にこの問題を議論するのか、となるがどのように取り扱うか。

(委員)

事務局からの説明で、細部まで詰めてあるので、おもとに戻ってまでの議論は必要ないと感じる。付帯意見としてまとめてはどうか。

(会長)

市としては、ごみの収集方法についての統一案である。この内容について、よろしいか？

⇒了承。

基本的には、これで進めていくが、地域によっては柔軟に対応してきたいとの説明であったが、手法についてはどうか？

(委員)

統一について、やむを得ないと考えている。社会的には高齢化が進んでおり、個別収集から集積化することでごみを運ぶ必要が生じるため、高齢者など排出が困難となることへの対応を考えていただきたい。

(委員)

集積場所が1番の問題となるが、集積場所の設置について、地域住民の意見を聞き、尊重して頂いて、場所の設置を考えていただきたい。

(委員)

集積化について、既に実施しているところで特に問題はないとのことであったが、障害者の方、高齢者の方に配慮して、設置場所を考えてほしい。また、地域住民の意見を聞いて設置場所を考えてほしい。

(会長)

伊勢地区地域審議会として、全市におけるごみの収集方法等の統一の方向性は基本的に認める。本日協議した意見、また欠席委員の意見をいただき付帯意見としてまとめ、最終確認させていただく。

○本日の意見

- ・集積かごなどの設置には、景観に配慮していただきたい
- ・高齢化社会の中で、集積化に伴い不自由になる部分を高齢者、障害者の方への対応に配慮いただきたい
- ・集積場所など地域住民の意見を考慮し、集積化を進めていただきたい

以上